こうちこどもファンド「久重naturalチーム」

久重の里山の魅力再発見プロジェクト！①　～SDGsで持続可能なまちづくり～

今年の夏は　おうちで流星群を観てみよう！

～8月「ペルセウス座流星群」～

８月１３日(土)午前１０時をピークに、日本でペルセウス座流星群が観測できるそうです。ピークが昼のため、高知の見頃のタイミングは、１２日夜から１３日未明、または１３日夜から１４日深夜ごろになります。１２日が満月のため月明かりがあります(^^ゞ　ペルセウス座流星群は四方八方にながれるためどこでも見えますが、北東の空を中心にみるといいそうです。この時期、子どもたちにとっては夏休みの楽しいひととき。ご家族でお空を見上げてみてはいかがですか。

１２月には、星空観測会の開催を予定しています。コロナ流行が落ち着き、たくさんの方と冬の里山で交流できることを願っています。

土佐の軽井沢とよばれる久重の里山の夏　お元気でお過ごしください。

久重ひまつぶしQuiz

疲れた脳をリフレッシュ！
答えは次号

クイズの答えをひらがなにし，頭文字を並べ替えて，
本当の答えを導き出してください。　　ヒント：今年はできるかな？

① 久礼野地区を代表する神社の名前，〇〇神社
② 道端のあちらこちらに生えているハーブの女王
③ 雨上がりの早朝，正蓮寺から街を眺めると見える，
④ 里に近く，人の生活に関わりが深い山のこと
⑤ 初夏の久重を代表する昆虫
⑥ 久重小学校 100 周年事業として記念植樹された木の名前
⑦ 悪かった状況や状態がよい方向へ向かうこと。四字熟語

こたえ…

広報委員会では読者が楽しめるコーナーも作りたいと話し合い，今号からクイズを入れてみました。
役員会の了承も得て次号からは懸賞付きにしたいと考えています。こうご期待！
　また川柳やフォーカスなど地域の人が登場できる投稿も募集したいと考えていますので，ご協力ください。

【編集後記】〇久重地域の水道施設を運営している９団体が初めて一堂に会し意見交換をしました。久重地域全体の水道整備を求めていくのか，自分たちが運営する施設を市に移管することを求めていくのか，熱心に議論しました。いずれの道も遠く険しいことを痛感しながらのスタートとなりました。
〇初めて挑戦したクイズ。わかりましたか？どの程度の難易度にするか迷いましたが，広報委員も個々の答えはわからないまま最終回答はわかったのでよしとしています。

久重地域連携協議会　ニュース

—第 40 号—
2022.7.25 発行
発行責任者：林照男
編集：広報委員会
高知市重倉 1596-134
電話：090-4501-3190

夏の思い出　夕涼み会

コロナで里山まつりが中止。子どもたちに楽しい思い出を作ってあげたいと久重保育園保護者会と久重小ＰＴＡが合同で7月15日(金)体育館で夕涼み会を行いました。

浴衣姿の子どもたちもお目見えし、短い時間でしたが、コロナの合間を縫って楽しいひと時を過ごしました。

保・小合同　夕涼み会　久重小学校（撮影：山本寛子広報委員）

久重地域の飲料水問題を考える！

～住み続けられる久重地域づくりをめざして

久重地域連携協議会は，誰もが安心して住み続けることのできる支え合いの地域づくりをめざして，「久重型共生社会」の推進に取り組んでいます。

前号では「身近なお困りごと」についてどんなお困りごとがあり，どう解決していけばよいかといったことをテーマにしました。今回は，久重地域の飲料水の現状について取り上げることとしました。

地域の重要課題として，飲料水問題は数年前に実施した中山間地域アンケートでは第１位，昨年実施した久重地域住民アンケート調査では第 2 位にランクされました。久重地域で住み続けることのできる環境を作っていくうえで，飲料水問題は避けて通ることのできない課題となっており，現在策定中の「第２期久重のまちづくり計画」の柱の一つとなる課題です。

6 月 28 日飲料水問題で初めて久重地域の施設運営者が集まり，現状の悩みや課題を話し合った。

初の意見交換会を開催

地域内９団体

連係協議会が把握している限り久重地域では、一〇〇人以上が利用する二つの専用水道と七つの小規模水道、その他の個人所有の水道があり、いずれも水質や水量、施設更新などに不安や悩みを抱えながら運営されています。

安心・安全そして安定的な飲料水確保をめざして、これまで議会や市長との意見交換会などで 10 回以上質問・要望をくりかえし行ってきていますが（右表）、前進は見られない状況です。

6 月 28 日には初めて施設を運営する９団体が集まり、現状や今後についての意見交換会を行い、要望実現には相当厳しい環境にあることを共通の認識にするとともに久重地域が一体となって取り組まなければ進まない課題であることを確認しました。

初めての地域全体の会 飲料水問題意見交換会

これまで飲料水についての悩みや不安を耳にすることはありましたが、地域全体で話し合ったことはありません。

そこで、現状を把握することを中心目的に施設運営を行っている９団体に呼びかけ「久重地域飲料水問題意見交換会」を初めて開催しました。

会議では各団体から悩み、不安の声が出されました。この４年間で補助金を活用しながらとはいえ一七〇〇万円を超える施設更新を行っている団体、冬の渇水期に昨年三〇万円、今年六〇万円で業者から水を買わざるを得なくなった団体、施設のある土地が売りに出されようとしている団体など現状を出し合いながら意見交換を行い、飲料水問題をめぐる深刻な状況を共有しました。

地域全体は無水源地域簡易水道 地域内各施設は市移管への強い願い

水道局の給水区域外が整備に立ちはだかる壁

久重地域に上水道を整備するとなると「無水源地域簡易水道」になるというのが水道局の主張です。

久重地域は水源がなくかつ人口五千人以下の地域というのが根拠のようです。

ではなぜ「無水源地域簡易水道」の事業化ができないのでしょうか。

これまでの回答で繰り返し言われてきているのが土地利用計画がはっきりしていないということです。

久重地域は都市計画区域の外にあり、水道事業の給水区域にはいっていません。言い換えれば水道事業の対象外区域であります。加えて、市民の水がめでもある鏡川の上流域にあり、水道が整備されることにより、乱開発や不法投棄を誘発し、鏡川の水質汚濁や環境破壊につながる危険性があるという主張です。

水道局は、必要な開発規制をふくむ久重地域一帯の土地利用計画を検討する中で水道整備も考えられるべきと主張し、当然市長部局の検討、判断が必要と回答しています。

整備にかかる莫大な経費を誰が負担するか？

次いで整備の壁となっているのが、費用の大きさです。二〇一七年度の質問では、久重地域まで管路を広げると

なると推定10億円はかかるとの答えが返ってきました。財源は、国庫補助が４割で県補助はなく、給水区域外の久重地域に事業化するには水道局の財源で行うわけにはいかず高知市と地元が残りの６割を負担する必要があるとのことです。

また、正式の文書回答にはありませんが、仮に久重地域に水道整備を行ったとして住民が水道料金を払って利用してくれるようになるのどうかということも懸念材料として出されています。

いずれにしても、久重地域への「無水源地域簡易水道」事業化には、最低限住民の合意形成が必要であります。

既存施設の市移管には施設基準を満たす必要

久重地域全体の水道整備ができなくても、９団体が運営している水道施設を市に移管できないかとの話し合いも意見交換会で行いました。

民間施設はそのまま移管することはできません。公の施設である簡易水道にするのですが、そのためには施設整備基準を満たす必要があり、相当の費用を負担して施設を整備しなおす必要があります。

どの団体もそれをする財力を持っていないのが原状です。

また、個々の施設を移管することについては、周辺地域を含めた整備が必要と否定的な回答となっています。

今年度の市長との意見交換会（7/29）に緑ヶ丘団地があらためて市への移管を要望書として提出しており、その回答を注目しています。

縮小化する補助金制度 不透明な市の所管部署

行政の支援は、「施設整備の支援」としており、施設改修などに補助金が交付されています。10年ほど前に制度化された地域にとっては大変ありがたい制度でしたが、別表のように補助割合が縮小され、小規模事業が対象外になるなど後退が続いています。

制度そのものの存続も不安な状況にあります。

また、久重地域のような給水区域外での簡易水道化であったり施設移管は本来高知市の支援なしにはできない課題であるにもかかわらずその所管部署がはっきりせず、対応を水道局に放り投げている現状があります。

7 月 16 日，第７回策定会議を開催。暑さに負けず熱心な討議が続いた。
次回８月開催日はコロナもあり未定。

【補助金制度の変遷】

2013 県 2/3 補助
2015 県 2/3 補助　市の協調で 13/15
2018 県 2/3 補助　市の協調で 8 割
2022 県 1/2 補助　市の協調で 7 割
　100 万円未満の事業は対象外
＊2024 年度までの補助制度は約束されているが以後は不明

これまでの主な質問・要望と行政の回答（2007～2021）

質問・要望	回　答
飲料水確保のための地下水の調査の実施	将来にわたる安定した地下水量の確保はあまり期待できない旨の認識が一般的な中で多額の経費が見込まれる調査は実施できない。
北山地区の給水問題	適当な水源がないため，無水源地域簡易水道事業になるが，土地利用計画が不確定な状況の中では鏡川の水質汚濁，環境破壊につながる危惧があるため，将来の土地利用の在り方とともに総合的に検討すべき。
・地下水量の調査はできないか ・無水源地域簡易水道の費用 ・緑ヶ丘団地専用水道の簡易水道化	・当地区は水道事業の給水区域ではないので調査はできない。 ・H 元年の調査で桜ヶ丘から小坂峠付近までの送水に 3 億円程度。久礼野・重倉までだと 10 億円ほどはかかる。国庫補助が 4/10 で県費補助がないので残りが起債，一般会計，地元負担金となる。 ・簡易水道化は可能だが，水道法に沿った事業認可が必要。専用水道単独ではなく周辺地域を含めた整備が必要。施設基準に沿った整備改良も必要のため莫大な費用が掛かる。 一般会計からの補助も必要なため，市長部局の意思決定も必要。
行川地区までの上水道の延伸	新たに 2km の管路の整備が必要になるが，給水区域外にあり，水道施設の耐震化や老朽管路の更新に重点的に投資している状況では大変困難。

投稿

バスの運転が乱暴！

6月15～30日のオレンジポスト投稿は１件で、バスの乱暴運転をやめてもらいたいとの小学生からの投稿でした。

乱暴運転については、これまでも再三バス会社への指導を高知運輸支局へ申し入れてきましたが、改めて今回も申し入れを行いました。

バドやピアノなど市街へ行かなくても習い事ができないか

7月1～15日の投稿も１件でした。保護者と思われる方からバドミントンやピアノなどの習い事を市街へおりていかなくてもできないかというものでした。

この件については8月3日開催予定の役員会で話し合いたいと思います。

数年前まで緑ヶ丘団地公民館を使って学習塾と書道教室が行われていました。

地域内全域から子どもたちが集まり、先生も市街から来ていましたが、子どもたちの減少とともにどちらも数年前になくなりました。

一定人数が集まれば保護者の負担を軽減するために再開できればと思っていたところです。

今回はバドミントンとピアノということなので公民館では無理ですが、ＰＴＡと協力して子供や保護者のニーズを把握し一定人数が集まるものは公民館や体育館でできないか検討してみるのもいいのではないでしょうか。

＝投稿全文＝

習い事をするには下に降りていかなくてはいけない現状があると思います。地域でバドミントンやピアノなど子どもに教えてくれる方いたらうれしいです。